

令和元年度 第6回 北区自治協議会 議事概要

日 時 令和元年9月19日(木)午後1時30分から

会 場 北地区コミュニティセンター2階 大ホール

出席者 委員

神田征男委員、神田恭之委員、赤間委員、松田委員、五十嵐委員、本間藤雄委員、阿部勝幸委員、原委員、山賀委員、清水委員、樺山委員、工藤委員、黒川委員、小林委員、澤委員、菅原委員、相馬委員、鶴巻委員、平松委員、皆川委員、村山委員、梅津委員、本間久文委員

計23人

(欠席：小池委員、藤沢委員、渡邊委員、本田委員、阿部美恵子委員、中嶋委員、佐久間委員)

事務局

[北区役所関係]

区長、副区長兼地域総務課長(以下「副区長」)、区民生活課長、健康福祉課長、産業振興課長、建設課長、北出張所長、北区農業委員会事務局長、北下水道分室長、消防局北消防署長、北区教育支援センター所長、豊栄地区公民館主幹、地域総務課長補佐2人、地域総務課員4人

傍聴者 3人

内 容

1 開会

2 報告事項

(1) 松浜海岸の環境整備と地域活性化事業 アキグミ植栽イベントの開催について

松田会長

まず最初に、報告事項(1)松浜海岸の環境整備と地域活性化事業アキグミ栽培イベントの開催について、若杉区長から報告をお願いします。

区 長

これは、令和元年度の北区特色ある区づくり事業、松浜海岸の環境整備と地域の活性化と

ということで、平成 29 年度に自治協議会の提案事業として始まり、平成 30 年と今年は特色ある区づくり事業として進めています。

令和元年 10 月 11 日(金)午前 10 時から松浜海岸で行う予定です。例年のように、松浜小学校の 4 年生が協力してくれたり、あとは地元の方々、国土交通省の阿賀野川河川事務所の方々も参加いただき、約 50 センチくらいに成長したアキグミを植栽します。平成 29 年から 1,300 本、2,700 本、3,300 本と増えているとともに、飛砂防止のネットも張ることになっています。

この事業は、飛砂の防止もありますが、実はひょうたん池にはオオモノサシトンボという絶滅危惧種のトンボが多く生息しております。市民文化遺産であるひょうたん池を守るということでも事業を行っています。また、小学生に参加してもらい、子どもたちに地域への愛着をもってもらおうということも狙いの一つとしています。自治協議会の委員の方々には 10 月 24 日の研修会で植栽後の見学をしていただきますが、もし時間がありましたら、このときにも来ていただければ大変ありがたいと思っております。

神田副会長

このアキグミの植栽が始まったのは、砂が飛んできて民家の天井の裏に砂が溜まり、その砂の重みで天井が崩れたのがきっかけです。天井が落ちてきた。下水に砂が飛んできて排水も流れないような状態。こういうことがあって、毎年各町内の皆さんからもご協力いただきながら行っています。この 10 月 11 日には松浜小学校の 4 年生が授業として取り組んでいただいています。これだけの砂が飛んでくる風があるので、育つまでに時間がかかります。24 日の研修会の時に現場を見てもらうと、分かるかと思います。ぜひお手伝いをお願いしたいと思います。

松田会長

ありがとうございました。今の報告についてご意見や質問がありましたらお願いします。

自治協議会の皆さんからも、お時間がありましたら、研修会の前に植えて、そして研修会に参加するといいいのではないのでしょうか。

(2) 住民バス、区バス実績について

松田会長

次の議題(2)北区住民バス、区バスの実績について、副区長から報告をお願いします。

副区長

「北区・区バスおらってのバスご利用案内」の地図と、報告資料2をご覧ください。

7月の自治協議会にて、10月の消費税引き上げに伴う区バスの運賃の改定をお話ししました。市の附属機関である新潟市地域公共交通会議において、8月22日に協議が整い、各運行事業者から新潟運輸支局への届け出が終わり、10月1日から運賃改定が正式に決定いたしましたことをご報告いたします。具体的には、200円が210円に、100円が110円にというものが改定後の料金となります。これについて、区民の皆様へのご案内は、まずは現在の利用者優先という意味で、9月2日より区バスの車内に掲示しております。また、9月15日号の区役所だよりでは、1面で大きく掲載しました。さらに公共施設に備えてあるこのご利用案内の脇に、料金改定のチラシも置かせていただくようにしました。

次に、先の自治協議会のご報告の際に、なぜ区バスの利用者が減少しているのかというご質問をいただきました。資料2の2に住民バスと区バスの利用実績と、利用者減少についての分析を表しています。

北区には、新潟交通が運行するいわゆる公共交通機関のバスのほかに、市が運行にかかわる2種類のバスがあります。委員の村山さんが座長であるはまなす地域交通研究会が市の補助金を利用し運行する「おらってのバス」、資料2-2になります。松浜から新崎へ結ぶラインと、さらに葛塚を結ぶラインです。こちらが、「おらってのバス」の運行経路です。住民バス「おらってのバス」の運行実績をご覧ください。この表の見方は、真ん中に運行存続ライン5.4人と書かれた破線がございます。この破線を、1台当たりの利用人数が下回ると、新潟市の補助金がストップする。いわゆる運行を続けることができないということになります。ご覧いただいているとおり、こちら、「おらってのバス」については、地域のニーズに合った運行を目指す努力がなされており、運行存続ラインを大きく上回っておりますので堅調な実績が見られるというところになります。

次に、区の直営であります北区バスです。3番の区バスの運行実績の欄になります。葛塚と太郎代、島見町を結んでおります。車体は9人乗りのジャンボタクシーを使用しています。

報告資料2の3、区バスの運行実績をご覧ください。こちらは先ほどの表と違い、破線が2本ございます。上は、バス車体の外側に入れている広告収入を運賃収入を足した存続ラインです。広告収入がない場合は、上の4人乗っていただかないとこのバスはなくなりますよという見方です。黒いほうの棒は1年間の実績で、薄い色の棒は、4月から8月、令和元年が8月までのデータしかないなので、比較のためにということで、8月までの実績を載せています。そうすると、令和元年は、もし広告収入がなければ、ギリギリのラインです。広告収入のおかげで、ボーダーの上をいっているという状況ですので、区バスの存続のためには、

なお一層ご利用いただく必要があるかなと思っております。

そこで、その表の右上に、先にいただいた利用者減少の要因について、私どもで考えられるものを挙げてあります。平成 22 年から運行しているのですが、10 年近く年月が経っておりますので、当初ご利用いただいていた方が、体調が思わしくなくなって利用できなくなったというところと、新たにお乗りいただく方がなかなか現れてこない。これは、三つ目の新潟市の 65 歳以上運転免許保有率の増加というところに結び付いています。

また、平成 29 年度と平成 30 年度のみの比較ですが、平成 29 年度の豪雪に比べ、平成 30 年度はほとんど雪が降らなかったために、当てにしていた南浜中学校の生徒さんの乗車が、暖冬によって落ち込んだというところがあります。あとは、私立高等学校のスクールバス運行が標準化されつつありまして、東京学館や、敬和学園などが太郎代方面にバスを運行させているので、区バスに乗っていただけないのではないかと、分析しています。

なお、その下に社会実験便というものがあります。これは、区バスと同じルートですが、区バスの定期便のほかに、皆様からのこの時間帯にバスが走れば乗るから、ぜひ走らせてくださいというご要望をもとに、太郎代 13 時 20 分発、豊栄行き 14 時 15 分発を、水曜、金曜ということで、実験的に走らせました。残念ながら表のとおり運行存続ラインを大幅に下回る実績で、これについては、来年は継続できないという表になっています。私どもも、地域にお邪魔して、乗らないとなくなりますのでご利用くださいという、お願いはしています。一時 1.7 人という数字で目標に近くなったと思ったのですが、8 月はまた落ち込んでいる状況です。

本日の資料にはありませんが、今年度、交通施策の基本方針である「北区生活交通改善プラン」というものの改定を行います。改定後の新プランでは、住民バス、区バスの実績を踏まえ、今後の北区の交通施策の進め方を明示いたします。なお、本日の表に入っていませんが、長浦・岡方両コミュニティ協議会に今年度から運営主体として運行していただいているデマンド交通についても、この新プランに盛り込んでいます。新プラン策定にあたっては、北区地域公共交通検討会議にて検討を進めているところです。この会議は、区内の公共交通関係者で構成されています。北区のまちづくりと連携した、持続可能な地域公共交通のあり方について、市民並びに関係者との協働によって検討できる体制が必要なため、地域住民代表として、自治協議会委員にも参画いただくことになりました。北区では公共交通分野の担当部会である地域づくり部会から 2 名出席いただいております。全体会議には部会概要として地域づくり部会から報告をいただきながら、最終的には来年 2 月に新プラン案について皆様にご意見をお聞かせいただく予定です。

松田会長

ただいまの報告について、ご質問、ご意見を受けたいと思います。

山賀委員

2点ほどお聞きします。北区の非常に大きな課題は、公共交通機関が不備であるということだと思います。他区に比べても公共交通がないところが多い。あっても、時間間隔などが非常に不足している。これが、北区が人口減少に結びつく重大な問題だと認識しています。私が自治協議会委員になってから3年目ですが、住民バス、区バスの実績についてという報告は、今日が初めてであります。今の報告の中で、利用者が減っているとかいろいろありますが、区は、今日の報告、実績に基づいて、この住民バス、区バスについてどのような評価をしているのでしょうか。例えば運行存続ラインがありました。この程度だから大丈夫だと思っているのか、今後危険なのか、どのような認識でいるのか、私にはよく分からなかったもので、もう一度お聞きしたいと思います。

またその中で、住民バス、区バスを今回報告するのであれば、先ほど言った長浦岡方地区のデマンド交通についても本来は触れるべきではないかということが1点目。

2点目は、細かいものは別として、住民バスの運行存続ラインは5.4人、収支率で20パーセントとなっております。それから、区バスの収支率は30パーセント。社会実験便は15パーセント。同じ市が補助して、なぜこれだけ大きく違いがあるのかお聞かせ願います。

副区長

まず、最初のご質問です。デマンド交通についての資料を用意していなかったことについては、大変申し訳ございません。機会をみて、資料を作成し、説明させていただきたいと思えます。

それから、区バス、住民バスの存続については、住民バスは、もちろんこれだけ頑張っていると思いますし、区バスについても存続することが希望です。この実態を決してよしとしているわけではありません。地域の方と話し合いをしながら、限られた予算の中でどの時間帯であれば乗車率が上がるのかとか、ダイヤの変更なども考えながら、何とか存続させたいという方向で動いています。ただ、残念ながら、運行存続ラインを下回ればというのは紛れもない事実ですので、そうならないように努めております。

二つ目です。住民バスは、補助金で市民の方が実施主体となってすべてを賄って運営している事業ですし、区バスは、区が運行を計画しながら行っている事業です。それで収支率が別に設定されています。

社会実験便は 3 年間やってもいいということになっています。ただ、収支率が 1 年目で 15 パーセント以上、2 年目で 20 パーセント以上、3 年目で 30 パーセント以上をクリアしたときに、社会実験を外して定期にするという流れになります。ですから、こちらの一番下の表の社会実験便は、1 年目で 15 パーセントを残念ながら大きく下回っておりますので、2 年目以降の継続はないという形になります。

清水委員

今の社会実験の関係で、非常にアンケートの回収率が 71 パーセントで要望が非常に強かったと。ところが実際に実験してみたら、そうでもない。この辺のギャップはどのように分析されているのですか。

副区長

私、無責任な話はしたくないのですが、個人的には、残念だなと思っております。それこそ皆様からいただいた税金を使わせていただいて、走らせているバスです。アンケートの中でも一番要望が多かったところを選んでの運行ですから、期待外れという言葉は適当ではないかもしれませんが、実際はそういった感情をもっております。

清水委員

今回の社会実験はこれで終わるという話ですが、これについて住民の皆さんはどう感じると思いますか。

副区長

この社会実験便については、すでに沿線地域の皆様には、4 回に渡って案内をしました。さらに職員が現地の集会に出向きその中で、このままでは危ないという説明をしております。結果がご覧いただいている状況ですので、継続は無理だろうというところです。

赤間委員

少し厳しいお話になるのだろうと思うのですが、地域としては廃止問題ということになると、だまっていられません。税金というものは儲けるためにあるわけではないのです。税金は弱いところに埋めるためにあるのです。その辺の基本的な考えをしっかりとっていただいて、廃止するのはいつでもできます。一旦やめたものを、また要望で復活というのは大変ですから、継続につながる何かいい方法を、利用者ために考えていただけるように、行政の努

力を見せていただきと思っています。

副区長

ありがとうございました。この社会実験便という運行ですが、北区だけではなく、新潟市全域で、全域といっても、公共交通が完備されているところはありませんが、秋葉区や南区でも実験便が走っております。先ほど申しました1年目15パーセント、2年目20パーセント、3年目30パーセントというのは、北区だけに課せられた縛りではなくて、新潟市全域でこれに基づいて行っています。その辺、ご理解いただきたいと思います。

村山委員

「おらつてのバス」の運行の研究会の座長をしております。

先ほどの山賀さんの質問の一つに、収支率がどうして違うのだという話がありましたが、これは、私どもの運行開始の平成22年は、一律全部の住民バスが、収支率30パーセントでスタートしました。当然、運行開始のときは赤字になりましたが、3年目に30パーセントを超えました。住民バスに関しては市の補助基準という明確な基準がありましたが、その基準を改定する中で、運行する沿線の人口等の部分を考慮した形の収支率に変えてくれたのです。「おらつてのバス」は、陽光～松浜～尾山～北区文化会館という運行です。そのバスよっての計算の方法、私も今詳しくはないのですが、そういう計算をした結果、うちのバスについては収支率を20パーセントのラインで設定していただいたのです。

この収支率は多分また5年後くらいに見直しされるのではないかと思います。うちの場合は延線が長く、そこにかかわる人口も多いので、その辺を考慮して20パーセントという収支率に設定をしてくれたのだと思います。

私どもも、社会実験もいろいろやってきました。アンケートも採りました。乗るといって、先ほどのお話ですが、私は、この「乗ります」というアンケート結果は初めから信用しておりません。また、こういうものが地域に根付いていくのは、かなり時間がかかります。私どもも、今年から帰りの便を1便、午後からの便で文化会館から陽光に帰ってくる1便を増便しました。これは、豊栄病院やベイシアに行って帰ってくる、その滞在時間を2時間で設定し運行を組みました。病院は今診察時間が長いですよね。だから、帰りが間に合わない。行きは乗っていけるが、帰りの時間帯が2時間では短すぎるということで、昼からの便を1便、復路だけを増便して今現在運行はしています。これも皆さんに馴染んでもらうまでにかかり時間がかかります。だから、社会実験便に3か月で答えを出すというのは、かなり無理があると私は思っています。やはり1年単位の長い目で見て、やっとそのお客さんが慣れたころ

に無くなったというような形では、何の実験をしたのかということになります。その辺は住民の方々、乗る方々に周知するまではかなり時間がかかるものだと、この「おらっのバス」を運行していると思っています。我慢できる部分については我慢して運行する。1年やって無くさない。バス停も急に変えない。お年寄りにこれからたくさん乗ってもらうのにどうすればいいか。「シニア半わりりゅーと」カードを作るため、更新するために送迎するなど、いろいろなサービスをしながらやっていかないと、なかなかお年寄りの方も乗ってくれません。高校生の朝晩の通学の利用数は、少子化の中でかなり減ってきています。トータルの乗車人数も、ピークの平成26年を頭に減ってきていますが、その分をお年寄りに「シニア半わりりゅーと」を使って乗ってもらえるような施策、体系、そういう形の運行をしていかないと数字が厳しくなってくると思っています。

平松委員

ただいま北区の区バス・住民バスについての内容は分かりました。こういったバスは、北区ではなくてほかの区でもあると思います。ほかのところでこの利用率がすごくいいところもあるのではないのでしょうか。では、その違いは何なのか。その辺の分析、時間帯なのか、経路なのか、運賃なのか、そういうところも調べて比較をして、検討してみたいかがでしょうか。

副区長

検討させていただきたいと思います。

松田会長

ほかにございますか。

北地区の皆さんにとっては、こうしたバスの運行というのは期待していることであり、ぜひにということの声はずっとあったわけであります。今、村山委員がおっしゃるようなアンケートと実態とがそぐわない中で、廃止よりも存続のために、私どもコミュニティとしてそうした呼びかけなど、地域としてもっとバスに乗る方策はないか考えることも必要かなと、個人的には思いました。

(3) 部会の会議概要について

松田会長

次第3の部会の会議概要について、報告を各部会長からお願いします。

五十嵐委員

地域づくり部会の今年の委員提案事業は「北区みんなで見守り隊」ということで、概要が大体決まり、日にちは元年の11月27日水曜日に実施します。これは、北区文化会館の日程の関係でこの日に設定しました。時間等はまだ調整段階で、決まりましたらまた皆様にご報告させていただきたいと思えます。

内容は、この前の自治協議会委員の研修会が北区文化会館でありましたが、あのような形で今考えています。基調講演を二つ、防犯の関係と福祉の関係、基調講演はわりと有名な、あまり堅くならないような講師の方を二つお願いします。それから事例発表ということで、四つほど、防犯と福祉とあとは未定です。その後、パネルディスカッションをやるということで、今後はこれを詰めていくことになりました。以上です。

清水委員

概要については、皆さんのお手元にあるので要約させていただきます。

一つは、令和2年度自治協議会の提案事業について、これについては、この会議終了後、また部会で議論するということになりました。

二つ目には、「大学生と協働！地域住民の健康と福祉を支えるまちづくり事業」について健康福祉課長から説明がありました。第1回目の応募状況は、8月21日現在で2名ということでした。委員の皆さんに、見学参加していただければありがたいということで、申し込みは事務局までお願いします。

三つ目は、「全てのママ・パパ応援プロジェクト」であります。これは、冊子で16ページ立てにして、内容は「ママとパパへ」と、「ママとパパを応援する全ての人へ」という二部構成にします。そのため、部会内でチームに分けて内容を検討することになりました。

四つ目は、第2回の教育ミーティングについてです。これについては、12月の自治協議会の前に行うということで、12月19日の1時30分から3時まで、場所はここ北地区コミュニティセンターでやるということです。小中学校の校長先生からも参加してもらってはどうかというご意見もあり、現在、検討を重ねているところです。以上です。

本間委員

まず、今年度の自治協議会委員提案事業である「子どもと音楽の出会い創出事業」、9月11日に無事終了しましたが、8月の部会では、区内の小学校を二つに分けて、約300名で午前と午後に分ける。それからチケットを各児童に配布して、受付といいますかもぎりを、り

ゅーとぴあからレセプニストを7人呼んで実際に行いました。コンサートというのはこういうものだという経験をしてもらいました。アンケートは児童と教員、自治協議会委員からも取ることになりました。案内文書を皆さんにお送りしましたが、部会の委員は出迎えのあいさつや、講演後のアンケート回収など、いろいろな形で子どもたちと交流をしてくださいということでした。鉛筆を持っていくのは大変だということで、アンケート用の鉛筆を準備しました。今日の部会で報告がありますので、来月の10月の報告できると思います。

それから、次年度の委員提案事業については、今日の部会で皆さんから意見をいただくということになっています。以上です。

松田会長

質問等がございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

特にないようでありますので、次に移りたいと思います。

3 その他

松田会長

それでは、次にその他に移ります。地域総務課からお願いします。

事務局

先月のこの本会議でもお願いしました「市長とすまいるトーク」についてご案内します。10月5日(土)午後3時から、ここ北地区コミュニティセンターにおいて、中原市長と市民の皆さんが直接対話する「市長とすまいるトーク」が開催されます。こちらは申し込みは必要ありませんので、委員の皆様もぜひご参加いただきたいと思います。

五十嵐委員

皆様に今日机上配布しています福島潟の自然文化祭の関係について、実行委員長を仰せつかっております五十嵐から二つほどお願いをさせていただきたいと思います。

福島潟自然文化祭は毎年9月23日の祝日に実施しています。非常に好評で大勢の方々からご来場いただいております。今年も、中原市長をお迎えして雁迎火(かんげいび)の点灯式を行います。ぜひ委員の皆様からのご来場いただきますようご案内申し上げます。

もう一つは、「福島潟自然文化基金」というチラシを机上配布させていただきました。福島潟自然文化祭はこの自然文化基金で成り立っております。最近になり、基金が底をつくような状況で、事務局の試算では、5年でだめになるかという危機感をもっています。宣伝不

足もあり、ご存じの方が最近は少なくなっております。1口1,000円で、年間会員の特典もあります。ぜひ委員の皆さんからもご協力をいただきたいというお願いです。

この自然文化祭の経費の関係を言いますと、例えば100万円を基金で支出すれば、市も100万円を補助するという形で運営をしております。あくまでも基金がもとになっています。福島潟の自然文化の啓発、教育、いろいろな面でやっている事業です。福島潟の自然を、北区の文化であり、資産でもある福島潟を後世に残すために、ぜひ委員の皆様からもご協力をいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

本間委員

「ほっとコミュニケーション講座」というチラシについて説明します。新潟県は、ここ十数年、自殺率というものが全国的にみて高い県で、5本の指に入ります。その自殺予防のための講座としてゲートキーパーという存在があります。ゲートキーパーというのは、自殺をしようと思っている人に寄り添って支援するという存在です。その養成講座が新潟市の8区で実施されることになりました。来週の28日から各区で実施するのですが、内容的には全部同じ内容で行います。どの区の講座でもよろしいですので、もし何か聞いてみたい、あるいはどういうものか勉強してみたいという方がおられましたら、ぜひ申し込んでいただきたいと思えます。

松田会長

ほかにございますか。

では、予定された議題は以上でございますので、事務局に進行を戻したいと思えます。